

産業遺産学会総会及び現地調査会報告

セルロイド産業文化研究会
会長 松尾 和彦

去る 2026 年 6 月 6 日、大阪学院大学に於いて 2026 年度産業遺産学会総会が開催され、また翌日には現地調査会が行われましたのでご報告いたします。

産業遺産学会も創立以来 50 年を迎えました。来年は早稲田大学大隈講堂に於いて記念総会が予定されています。本年の総会は、その前説を務めます重要なものであります。

先ず議案審議が行われ 2025 年度に行われました総会、現地見学会、役員人事などの 1 号議案、収支決算報告の 2 号議案、2026 年度の事業計画に関する 3 号議案、2025 年度の 4 号議案、産業遺産学会規約一部改訂の 5 号議案の審議が行われ、何れも賛成多数で可決されました。

次に推薦産業遺産の認定式が行われ第 135 号として磐城無線電信局と「原町無線塔」の関連施設群・富岡受信所・短波送信所跡(福島県富岡町)と第 136 号として磐城無線電信局と「原町無線塔」の関連施設群・原町送信所・電弧式送信機の電磁石(埼玉県和光市)が認定されました。

また 2026 年次功労者表彰として信州大学繊維学部が認定されました。

最後に清水憲一会長による「産業遺産学会 50 年の歩み」と題する講演が行われた後に閉会となりました。

翌日に行われました現地調査会として神戸海軍操練所遺構の見学調査が行われました。

この操練所は勝海舟によって 1864 年に開設され、翌年には閉鎖されてしまうという極短期間のものでしたが坂本龍馬も学んだ日本で最初の海軍士官養成所です。

またこの地は神戸電信発祥の地でもありすぐ隣に碑が建っています。

海軍操練所遺構の碑



電信発祥の碑



次に神戸市立博物館に移動して特別展「神戸百華 - コレクションが開く神戸の魅力」を見学しました。

この博物館は横浜正金銀行神戸支店であった建物だったために今でも天井などに銀行時代の名残を感じることが出来ます。

神戸市立博物館



天井に名残がある



横浜正金銀行は外国為替・貿易金融に特化した銀行で本店は神奈川県立歴史博物館、門司支店は北九州銀行門司支店となっています。

旧本店(神奈川県立歴史博物館)



門司支店(北九州銀行門司支店)



この神戸市立博物館が所蔵しています数多くの資料の中には誰もが一度は目にしたことがある物があります。それは教科書でお馴染みのフランシスコ・ザビエルの肖像です。この肖像は各地にあります教科書にでる本物は、ここのものです。

今回は特別展でもありますので先程の海軍操練所の破風が展示されています。この破風は後に学校に使用されたという歴史を経た後に保存されることとなりました。

セルロイド関係者としては嬉しいことに鈴木商店の法被が展示されています。またガラス製ではありますが、キューピー型の容器が展示されていることも嬉しい限りです。

フランシスコ・ザビエル像



海軍操練所の破風



鈴木商店の法被



キューピー型容器



この博物館がある場所は旧外国人居留地ですが、どうしてこの場所が選ばれたのか見ていくことにしましょう。幕末にアメリカ、ロシア、イギリス、オランダ、フランスとの間に和親条約、修好通商条約が結ばれて日本は鎖国政策から開国政策に移行します。

よくこの時に日本側が一方的に押しまかれたと言われますが、実際は大健闘しています。先ず開港する場所ですが、最初は 17 ヶ所と言っていたのを 11 にして 7 にして最終的には 4 ヶ所になっています。そして場所も神奈川ではなく横浜、兵庫ではなく神戸としました。

よく言われます領事裁判権の問題ですが、それは外国人居留地内部の事件に限ったものです。そして領事裁判権を認めた代わりに外国人は決められた居留地にしか住むことが出来ませんでした。そして旅行も最初は日帰り次に一泊二日までと限られていました。そのため逆不平等条約でもあると言われていました。

この条約は 1898 年に改正され領事裁判権が撤廃されるとともに自由な場所に住むことが出来るようになったので翌年に廃止されました。

このような歴史を持った場所ですので個性的で魅力的な建造物が数多くありますので建築関係者のみならず魅力的な場所です。

数々の魅力的なビル

海岸ビル



商船三井ビル



このような建造物の数々を見学した後にメリケンパークに向かいました。この場所には1995年の大震災で破壊された港湾施設が当時の姿のままに保存されています。



この場所に於いて次回総会の開催場所である信州大学繊維学部、早稲田大学大隈講堂での再会を期して解散となりました。

神戸は横浜とともに近代化遺産の宝庫と言える場所です。中心地である三宮からも近いので訪れやすい場所です。またその三宮駅近くの鉄橋には戦争中のグラマンによる銃撃の痕が生々しく遺っていますのでこちらにも目を向けてみてください。

※本報告についてお問い合わせがございましたら、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

セルロイド産業文化研究会

会長 松尾 和彦

メールアドレス : cellmatk@yahoo.co.jp